

2023年度
ぐりーん事業報告

2023年度 事業報告

事業費

27,776,990円

達成率

93%

◎ 4月からのスタートの人数確保ができていなかった
(23年度部活動の新規獲得1名のみ、学習支援3名 児童発達支援4名)

◎ 24年度利用者獲得に向けて

↳ 放デイガイダンスに参加。そこから見学希望者が増え、新規利用者を獲得することができた。
ニーズの高い学習支援、児童発達支援の枠が増えることで利用者増やすことができた。

◎保育所等訪問 件数 前期18回 後期13回

◎児童発達支援 月2回の学習会、3月卒業遠足実施

◎体験的宿泊

◎レクリエーション部月2回開催

◎自分たちで遊び計画

2024年度 NEWぐりーんの紹介

- ①中高生の部活動がわたぼうしに移行。
- ②個別支援を開始。
- ③児童発達支援事業を週2回から週3回に変更。
- ④学習支援も週4日から週5日に変更。

⇒結果・・・4月より新規利用者17名
利用日数増 4名

児童発達支援事業

- 2024年4月より週2回→週3回に変更
- 在籍（2024年4月時点）
 - 9名（うち3名週2回利用）計：12名
 - 利用希望で待機者 3名

ニーズが高く、今後も新規の依頼も見込められる。

利用日を欠席をしても、振替での利用の希望も高い。

→利用の受け入れができる体制を作るとともに、満足度の高いぐりーん独自の支援を
続けていく必要がある。

目標1：児童発達支援事業の利用児を増やす

- 今年度新入職の職員（非常勤）への研修を行う
4～6月 月1回程度（発達障害の特性が中心）
支援後の振り返りの時間に支援の方法や疑問点などを話し合う時間を作る。
→6月頃に、個別課題を担当できるようになる
- 職員個々の専門性を生かした支援をする
→研修会の参加等スキルアップを行う。

目標2: 個人に合わせた支援を提供する



目標3: ライフステージを意識した支援を提供する

- 年長と年中・年少にグループを分けて活動を設定。
 - 年長グループ：ルールのある集団遊び、やり取りや聞き取りを含む遊び
登下校を意識した歩行練習、手先を使う遊び、
個別課題（自立も含む）45分程設定 など
 - 年少グループ：感覚統合の要素のある遊び、個別課題 5分程度 など
- ご家族向けに学習会の開催
 - 年長：小学校入学に向けて(年2回)

目標4：保育園との連携を強化する

- 新規の利用者の園に事前に訪問を行い、アセスメントを行う。
- 定期的に、園や相談員に連絡を取り、様子の確認や目標の共有をする。
- 保育所等訪問の活用により園との連携強化やぐりーんでの支援を般化する。

学習支援

去年) 火・木・金・土 → 今年) 火・水・木・金・土

新規利用者6名 (日数増 2名)

利用希望の待機者も 3 名程度

→ニーズが高く、今後も新規の依頼の可能性も高い。

新規利用者の定着のために、昨年度よりも質の高い支援をする必要がある。

小学校 1 年生から高校 1 年生と年齢層も広く、個々に合わせた課題を毎回準備が必要。

目標1：自立的に学習に向かえる時間を作る

- 利用者全員（20分程度）自立的に進められる課題を設定。
- 机の配置、パーティションの活用、感覚入力ができる環境など個々に配慮した環境設定の見直し。
- タイマー、スケジュールなどを視覚的支援の見直し。
- 自分で学習に向かえたことに対しての成功体験が得られるような職員の関わりを持つ。



目標2：利用児が満足感・肯定感が得られる プログラムを作る。

- 同じ学年の利用児を同じ利用日に。
 - (木) 4年生のグループで算数や国語のミニ予習授業
 - (土) 中1年生グループで数学や英語のミニ予習授業
- 教科学習以外にも、グループ活動も開始
 - (火) (土)
コグトレやビジョントレーニングなど体を動かす活動
 - (火) (木) (金) (土)
実行機能のワークや覚える工夫などゲームを取り入れた活動

目標3：学校（担任、コーディネーターの先生等）との情報共有を行う

- 定期的に学校と電話での情報共有をする。

特に7，8月は強化月間とし、全員の学校と情報共有をする。

加算（関係機関連携加算Ⅰ）の算定もできるため積極的に行う。

目標4：卒業をさせられる支援をする

- 来年度までに2～3割卒業ができるようにする。

本人・家族が納得・安心できるように…

- 目標を明確にして、家族・本人と共有する。
- 普段から支援内容を分かりやすく伝える。
- 利用者自身が自分のことを知り、工夫の方法を身に付けられるようにする。

(セルフアドボカシー)

ニーズが高い事業のため、来年度を見据えると、新規の利用受け入れをするためには、一定数卒業をする必要もある。

個別支援

- (火) ~ (金) 1回あたり40分間
- 特に個別で専門的な支援を必要とする方が対象。
- 今年度から開始のため6名全員が新規利用。
- 目標や内容は個々によって全く異なる。
1対1 または、2対1の体制で行っている。
- 自閉症支援の専門性を要するため、担当できる職員が限られるため、これ以上の受け入れは難しい。

-
- 個別支援は、TEACCH、ABAをベースに感覚統合やPECSを専門職（心理士・作業療法士）が実施。
 - 対人コミュニケーションのベースを学ぶ。
 - 目標は個々に違うが、目標に対するゴールを明確にし、卒業を見据えた支援を行っている。

保育所等訪問事業

- 基本的にぐりーん利用児で必要度の高い場合に行く。
- 園や学校で困っていることへの支援方法の提案やぐりーんで行っている支援の般化などを行っている。
- 園への訪問→保育士へのフィードバック→報告書の作成
→家族への報告（なるべく対面で）
- 今年度は、人員が少ないため、相談員と相談しながら本当に必要性が高い利用児のみ行う予定。

全体目標：利用調整をして平均的な 利用人数を確保する

- 目標達成金額：2530万円

1カ月当たり 約210万円 その為には、1日平均 8.5人以上

現在、1日平均 9.2人

欠席が出るとすぐに達成が難しくなる…

→そのため、受け入れられる曜日に利用希望で待機している方を

早く受け入れる必要がある。

健康・生活

園、ご家庭と連携し、生活リズム、心の健康を確認します

ご家族向けの学習会も行っています

ぐりーん

児童発達支援事業

支援プログラム

運動・感覚

感覚統合をベースに、作業療法士による粗大運動、微細運動のプログラム設定、評価を行います

認知・行動

ABAの考え方をベースに、好きな事、得意な事から経験し、学べる時間を作ります

言語・

コミュニケーション

社会的コミュニケーションの基礎となる、人との関りから、自発的な発信の力を伸ばします

人間関係・ 社会性

少人数で一人一人に合ったプログラムを準備しています

健康・生活

学校、ご家庭と連携し、生活リズム、心の健康を確認

●ぐりーん
放課後等デイサービス
支援プログラム

運動・感覚

作業療法士の感覚プロフィール・DCDアセスメントにより、支援プログラムの作成、実施

認知・行動

標準化されたアセスメントツールによる分析をもとに、専門職員による支援プログラムの作成、実施

言語・

コミュニケーション

標準化されたアセスメントツールによる分析をもとに、専門職員による支援プログラムの作成、実施

人間関係・
社会性

標準化されたアセスメントツールによる分析をもとに、専門職員による支援プログラムの作成、実施